

環境先進国

ドイツから学ぶ

37

吉田 浩巳



BUNDは、環境NPOの中でも行政や企業に対する動きをチェックする活動を中心に展開しています。広報担当者によると、常に注意しているのは、環境に関してスキャンダルが起これば、その中に別の政治的要因や意図的な別のものが混ざっている可能性があるため、そのあたりを十分見極めてから行動するそ

をします。

また、最大の活動の柱はエネルギー問題で、代替エネルギーを普及させるため、行政に対して普及のための補助金政策や企業に対しては価格の調整の提言をしたりしています。ヘッセン州には最も古くに建設されたビブリス原子力発電所があり、時々事故を起こしています。

様々な環境NPO③

行政・企業へ明確に主張

うです。その際、活動の方法としては、市民に自覚を促すという手法を取っています。

例えば、幼稚園で出されるおやつについて、子どもにとって悪い成分が入っているということが分れば、その成分表示を積極的に公開していき、「なぜ子どもにとってよくないのか」の具体的な根拠を目に見える形で公開し、幅広く事実を知っていただく努力

3年前にも原子炉の制御棒の中に使われているネジの材料が規格と違うものが使用されていたということが分かり、これを交換しなければ重大事故につながった可能性が高かったといわれています。

ドイツでは、徐々に原子力発電所を減らしていく政策が進められています。しかしながら、このビブリス原子力発電所は政権交代により、産業界が支持する政

党が与党になったため、原子力発電所の必要性が一部で言われはじめ、閉鎖を延期しようとする動きさえ出てきています。これについても一貫して反対運動を積極的に展開しています。

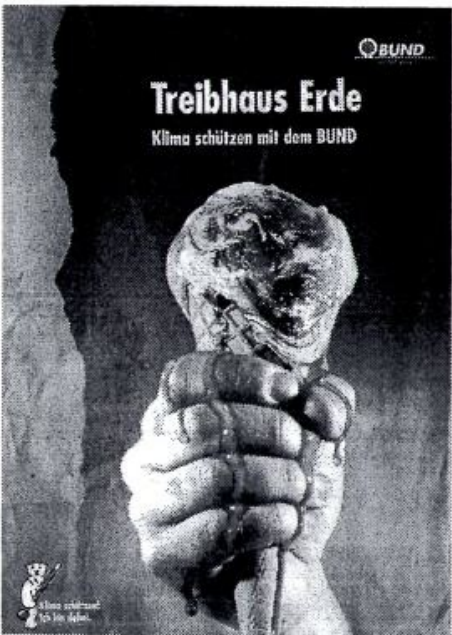
その理由としては、このビブリス原子力発電所はフランスフルトの南約60キロの所に位置しているため、テロリストが飛行機でここに突っ込めば大事故になることも考えられますし、もっと現実的なこととして、核廃棄物処理に関して安全性なども含め、未だに問題が解決されていないことを重視しています。

また、ここには石炭で稼働しているスターディングー発電所というのがあります。このあたりは住宅地で、ここで発電された電力は輸出されており、輸出電力のためにこの近隣が公害を被るのはおかしいという主張で反対運動を展開しています。このように、BUNDは明確な主張を持っており、時には他の環境団体とも協力してデモ行進を行います。多い時ではデモは5万人の規模となったこともあるそうです。

日本にはないスタイルの環境NPOもドイツでは多くの会員を集めて活動している現状があるのです。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

|| 毎月第2、第4、第5水曜日掲載 ||



地球をアイスクリームで表現し、地球環境が壊れやすいことを訴える環境NPOのポスター